

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第75号

[2015年7月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第75号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ/ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次> [ページ]

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで (30)

グローバルフェスタのボランティア募集

編集後記

次号の予定



メソトマンスリー

【メソト=鈴木 みどり】



最近のメソット

『メータオ・クリニックの学生ボランティア』

メータオ・クリニックには欧米から多くのボランティアが訪れていますが、今まで地元タイ人のボランティアには会ったことがありませんでした。

しかし、先月からタイ人の女の子2人が学校保健でボランティアを始めました。一人は今年高校を卒業したばかりの、カレン族のタイ人、ピアワンちゃん、8月から大学で4年間公衆衛生を学ぶそうです。もう一人は、元々のタイ人で、地元がメソットのプロイちゃんです。チェンマイ大学で医療工学を学んでいます。英語が堪能で、私のような海外からのボランティアや学校保健のスタッフとも英語でコミュニケーションを取り、主にタイ語のサポートをしています。

学校保健部門は、今年から、学校保健評価のやり方を日本やミャンマーでなく、タイのやり方に移行しました。

タイの教育省と保健省の役人を交えての会議、書類や評価項目もタイ語からミャンマー語に翻訳、またミャンマー語からタイ語へ翻訳、タイ語の訂正…メータオ・クリニックのスタッフにはとても難しい、プレッシャーの大きい作業です。こんな時日本人の私は全く無力です。

ここで活躍したのが彼女です。

タイ語で自然な表現に訂正したり、会議中私にタイ語から英語に簡単に分かりやすく通訳してくれたり、とても助かりました。学生の立場でも会議の為に大きな役割を果たしていて、更に、ミャンマー側の移民学校と一緒に訪問したり、環境の日の国境での清掃活動、デング熱キャンペーンに参加するなど中身の濃い体験をしています。

お互いクリニックで初めて会うタイ人-日本人のボランティアということもあり、話が弾みました。

彼女がメータオ・クリニックのボランティアに応募したのは、フェイスブックで偶然クリニックの記事を見つけたからだそうです。学校の友達の間ではクリニックは特に有名ではなく、彼女は一人で応募して来ました。将来は国際的な団体で働くことにも興味があるそうです。検査技師として病院の中だけでずっと働くより、いろいろな人にとって外国に関わる活動もしたいという気持ちがあり、留学も考えているそうです。若いのに凄いなあ〜と感心します。

つい、気になり、タイ人はメータオ・クリニックにどんなイメージがあるのかと聞いてみました。「人にもよるが、ポジティブなイメージだ」と言っていました。ただ、衛生面はやはり気になる人もいます。タイの病院には、日本同様、犬はいませんし、唾を吐いた後もなく、整然としていますので、納得できます。



彼女のようなタイ人のボランティアは、タイのコミュニティーとメータオ・クリニックや移民のコミュニティーを繋ぐのに、今後も必要な存在です。

日本人でも国際協力に興味がある学生さんや社会人はいっぱいいると思います。タイミングにもよりますが、英語と何かもう一つできればクリニックでボランティアできる可能性がありますし、自分でホームページから申し込みできます。

タイ人の若者は日本に興味がある人が多いです。普段から日本語の番組を見ていて簡単な日本語を理解できる人も多いです。タイ人と日本人と一緒にボランティアできたら楽しいだろうなと思いました。

現地派遣員の交代のお知らせ

先月号の「国内から」の記事を担当した神谷友子看護師が今年8月より鈴木の後任として現地派遣員として活躍することになりました。今後ともご指導、ご支援のほど、どうぞよろしくお願いします。

なお、鈴木看護師の活動報告会は、引継ぎが終了したのち、帰国後に開催する予定です。詳細が決まりましたら、会報にてご案内いたします。

国内から

米国に第三国定住したカレン族は今

【アメリカ=梶 藍子】

ご無沙汰しています。2007-2009年の間にメータオ・クリニックで活動をしていました梶藍子です。私は現在、米国大学院の博士課程に所属し学生として難民、移民と健康について勉強しています。

ミャンマー/ビルマの長期に渡る内戦から逃れ、タイやマレーシアの難民キャンプで暮らしていたカレン族、カチン族、シャン族などが第三国定住制度を通じて米国で暮らしています。米国政府とタイ政府の合意のもと2005年から米国への第三国定住制度が始まり、今では73000人以上のミャンマー出身の難民が米国で暮らしています（現在、ミャンマー国内の民主化に伴い、タイ・ミャンマー国境沿いにある難民キャンプが閉鎖され難民帰還への期待があり、米国政府はこのタイ・ミャンマーの難民キャンプからの第三国定住を目的とした難民を受け入れないことを発表しています）。





【写真】 タイ・ミャンマーの難民キャンプの様子。

2013年米国テキサス州では世界各国から第三国定住を目的としたおよそ7100人に及ぶ難民を受け入れており、そのうち2000人近くがミャンマー出身の難民でした。イラク難民の次に多いのがミャンマー出身の難民です。その多くがカレン族出身の難民であり、テキサス州のヒューストンで暮らしています。

ヒューストンは米国の都市の中でも非常に多くの難民を今まで受け入れてきており、特に何万人ものベトナム難民が暮らしています。物価は他の都市に比べて安く、多様な人種、民族が集まり、ビジネス都市として繁栄する中で難民が仕事を見つけやすいことなどが、たくさんの方々が住む理由だと言われています。

私は幸運なことに所属している大学院より研究費をいただき、この夏ヒューストンでこのカレン族難民の健康問題と病院機関の利用を調べる調査を行っています。

調査は「カレンの人たちは米国に来て、どのように病院で受診しているのか」という私の素朴な疑問がきっかけでした。テキサス州では難民が米国に到着してから90日間は無料の健康診断を受けることができます。その後、難民医療アシスタントという保険かメディケイドに申請し8か月間はいずれかの保険で病院やクリニックで診察を受けることができます。その8か月以後はもし仕事があれば雇用主が入っている民間保険に加入するか、オバマケア保険（政府が公認する皆保険制度）に加入することが見込まれているのですが、実際それらの保険にどのように加入しているかはよくわかっておらず、難民を支援するNGO団体もその難民数の多さから把握しきれいていません。もし重病にかかった無保険の患者の場合、世界の中でも最も高額な米国の医療費を自費で払うということは財政的なリスクが伴います。

米国の複雑な保険システムへの理解不足や英語という言葉の壁から保険を申請し、病院へ通うことが難しいのが現状です。また長期に渡る内戦により心的外傷後ストレス障害に悩み、新しい環境に適応できず鬱状態になる難民も多くいます。この調査の結果により少しでもカレンの人たちが米国で健やかに暮らせるように貢献できたらと思っています。





【写真】カレン族が運営するヒューストンの教会

国際保健医療協力のなかで (30)

【東京＝小林 潤】



日本のグローバル化とはなんなのだろうか？文部科学省の強い意向により大学もグローバル化を求められている。大学は国際レベルの研究と教育をすべきであり、そうでなければ専門学校であっておかしくないと思うので、大いに賛同するところである。また日本の若年層の数は年々少なくなっており、海外の学生を積極的によびこまなければいけないというのも理解できる。しかしもっとも今やらなければいけないのは、日本の若者が海外にでて学び、海外の土壌で働くことを推進することであると強く思う。

明治維新に新政府から派遣された岩倉使節団は平均年齢32歳、アメリカ渡航のあとイギリスに入りヨーロッパ各国を1年以上かけて視察した。このとき後半で訪れたのがドイツであった。当時新興国であったドイツはイギリス・フランス等の列強と対等に張り合うためにいち早く軍事力をつけて対抗し成功した。のちにこの考え方は大きく日本に影響を与えたのは有名である。実はこの時の隠れた話がある。ドイツは日本が見習いたいならば顧問団を送る用意があると申し出たが、「自分たちの国であるので時間がかかるが自分たちで作っていきたい」と意思を明確に示して、丁重に断ったという経緯があることである。この話で感銘を受けるのは、若干30歳前後の若者で構成された代表団が、自分たちの意思を自分たちの言葉で伝えて討議をし、且つドイツから学び取って帰ってきたことである。これはドイツにたどり着くまえに、アメリカ、イギリスとの交渉で鍛えられたからでもあると言われている。もしドイツの顧問団を受け入れたらと想像してみると、日本はイギリス・アメリカとむすんでいたような不平等条約をドイツともむすばされて、経済発展がおざなりにされ軍事優先国家がいち早くできていたかもしれない。ドイツだけでなく、ベルギー等の小国の経済による立国等の考え方も柔軟にとりいれて新しい日本ができたのは有名な話である。政府の行う国際協力とは言葉は綺麗であるが、その協力・援助は、援助を行う方の利益も考えて行われるという面も多かれ少なかれあるからである。現実に日本の援助も、保健医療を中心とした「人間の安全保障」をうたってきたが、日本企業の利益、日本の政治的国益も考えるのは当然のことといわれているし、その流れは現在さらに強まっている。



昨日、大学の就職センターの説明会があり、沖縄県内大学の低い就職率が改善されたことの説明があり、そこで学生のアジア各国への就職をも実現された影響もあるとの話があった。高く評価される場所であるが、実際日系企業のベトナム・カンボジア・バングラデッシュ等のアジアの新興国への進出にのっかっているだけの話にも聞こえた。私が国際保健を始めた20年前に比べると、海外に行くのは現時点たやすいし、若ければアジア各国で多少の英語ができればこれら企業関連で容易に仕事をみつけれられる。こういう支援も必要だとは思いますが、志の高い優秀な学生が国連機関や、外資のグローバル企業や国際シンクタンクでもまれながら働けるような道筋をつけることが必要であると強く思った。日本で学ぶアジアからの留学生は、日本企業や日本のシンクタンク（大学や研究機関）への就職をめざしているし、さらに国連機関へも羽ばたいていく。それを支援したいし、そのような体制を作るべきとも考えているが、最終的ゴールは彼らとともに学ぶ日本人学生が日本の土壌でないところで、活躍することである。これは単に海外で暮らすということではなく、国連機関や国際シンクタンクやアジア各国がつくるグローバル企業で働き、近い将来の日本の国づくりに還元させることだと思う。

内向きな学生、挨拶ができない学生、これらの学生をなんとかすべきだと、こんなことばかり聞かされる。その度に「大学教育でも挨拶のしかたや、履歴書の書き方を教えるべき」と認識はさせられるのだが、はっきりいって面白くない。少なくともそんな学生は私の教室には一人もいないし、JAMコアメンバーで頑張っている若い人もそんな人はいない。保健学科の学生でも9割以上の学生はしっかり挨拶はできるし、むしろ彼らに挨拶されないという教官の要因も考えるべきかと思う。

挨拶ができるように大学で教育するよりも、意思がある人たちが、岩倉使節団についていった何十人もの留学生のように、でていけるように後押しをしないといけない。そしてそれが、アメリカや、ヨーロッパだけでなく、アフリカやアジアにもいくようにすべきと思う。産業革命以来、イギリス、アメリカは格差社会を生み出しつづけていて、「国民総中流」といわれた日本も残念ながらあとにつづいているのは皆さん知っているだろうか。日本の相対的貧困率は10%を超えていて、経済破綻をおこしているギリシャや、経済大国アメリカ等につづいて2010年にはOECD*34か国中10番目に高い率であり、この傾向はさらに強まっている。さらに沖縄県はこのなかでも飛びぬけて貧困率が高い。この格差社会を是正するヒントは、格差社会をつくってしまった市場経済主義を哲学としているイギリスやアメリカへの留学だけで得られるとはとても思えないのであるが、間違っているだろうか。

*OECD：「Organisation for Economic Co-operation and Development：経済協力開発機構」ヨーロッパ、アメリカを中心に発足して、日本や韓国も加盟。

グローバルフェスタのボランティア募集

グローバルフェスタ JAPAN2015 に出展申し込みをしました！

一緒にお手伝いをしてくださる

ボランティアを募集しています！！



【出展内容(メータオ・クリニック支援の会)】

タイ・ミャンマー国境付近の移民・難民の数は、ミャンマー国内の民主化が進んでも減少にはありません。そのような現状のタイ・ミャンマー国境付近の医療状況、メータオ・クリニックの設立経緯・概要、当会の活動報告(院内感染対策・学校保健支援の取り組み)をパネル展示致します。ミャンマーの少数民族の民芸品販売も実施します。

【ご注意ください】

・今年から、会場が日比谷公園ではなく

お台場・センタープロムナード公園です。

グローバルフェスタ JAPAN2015(入場無料)

日時：**2015年10月3日(土)、4日(日)** 10:00~17:00

場所：お台場・センタープロムナード公園(シンボルプロムナード公園内)
東京都江東区青海1-2

公式HP：<http://gfjapan2015.jp/>

☆☆ ボランティア募集のご案内 ☆☆

メータオ・クリニック、タイ・ミャンマー国境付近の医療状況にご関心がある方から、国際協力・NGOの活動に興味があるけど何から始めたらよいかわからないという方(医療従事者以外の方も大募集!)、そしてJAMの活動に賛同して下さり、皆で楽しくメータオ・クリニック支援の会のブースを盛り上げてくださる方を募集しています。

グローバルフェスタは2日間ありますが、お時間は調整します。1時間でもかまいません。具体的にお手伝いをお願いしたい内容は、**テント張り、テントたたみ、民芸品販売の商品の陳列、販売(店番のお手伝い)、通りがかった方々へのチラシ配り**です。

ご興味がある方は、

- (1) 氏名
 - (2) 住所
 - (3) 所属
 - (4) 電話番号
 - (5) パソコンメールからの連絡がつくメールアドレス
 - (6) 3日、4日の中で参加可能な日にちと時間帯
- をご記入の上、

当会アドレス "support@japanmaetao.org" (担当: 斉藤、伊藤)までお送りください。

メールタイトルは「グローバルフェスタボランティア申込み」とご記入をお願いいたします。ご連絡お待ちしております。



